



かい とど

世界に届け!

えん だま

募金



この建物は何だろう?

たくさんの自然災害が
おきているけど...

この国に住む仲間たちに
必要な支援は何だろう?

少女たちは
何をしているの?

ネパールの水道、
日本との違いは何だろう?

自然災害から命をまもるには
どうすればよいだろう?

本教材のねらい

3つの実践目標と1円玉募金

本機関紙では、青少年赤十字メンバーの皆さんからお預かりした「1円玉募金」などをもとにして日本赤十字社が行っている「青少年赤十字海外支援事業」に焦点を当て、支援事業の内容や、支援対象である海外の国々で取り組まれている実際の活動の様子、支援事業が各国で生み出してきた成果をご紹介します。

そして、本教材を活用した学習を通じて、1円玉募金が青少年赤十字の3つの実践目標「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の達成につながっていることをご理解いただくとともに、メンバー自らが「自分にできることは何か」をあらためて考えることをねらいとしています。

海外支援事業をきっかけとして

教育・衛生環境の改善、青少年赤十字・赤新月メンバーの活動支援などを行う「海外支援事業」は平成29年4月からはネパール、バヌアツに対して支援が始まっています。

これまでの活動内容や成果を報告し、日本の青少年赤十字メンバーに自分たちの募金がどのように役立つのか、海外の子どもたちがどのような状況に置かれているのかを理解してもらうことを通じて、自分たちにできることは何かを考えてもらう一つのきっかけとなることをねらいとしています。

本教材の使い方(例)

1はじめに(表紙の写真から)

皆さんは、1円玉募金と呼ばれる青少年赤十字活動があり、自分たちの募金による支援が各国の青少年赤十字メンバーへ届けられることを知っていますか？

また、この活動に取り組んだことはありますか？

このポスターの下段には、ネパール・バヌアツという2か国の現状が写っています。

ネパールの現状

ネパールでは、現在でも家や学校にトイレが無く、野外で排泄せざるを得ない状況が存在します。

水道があっても1日1回1時間しか水が出ないこともあります。トイレがあってもそこにトイレトーパーが無ければ、そばに溜められた水を使って手で直接洗わなければなりません。

右手を使って食事をする慣習があるネパールの人々にとって、手洗い場やトイレの普及、石鹸を用いた手洗いを身に付けることはとても重要なことです。

バヌアツの現状

バヌアツは、災害のない平時は海に囲まれたとても穏やかな国ですが、地震・洪水・サイクロン・干ばつ・火山噴火などの自然災害が多く、災害リスクが非常に高い国です。

気候変動や度重なる災害によって、地域社会における防災教育のニーズは高まっています。

また、上段には、日本全国の青少年赤十字メンバーから寄せられた1円玉募金などをもとにして活動している、2か国の青少年赤十字メンバーの様子が写っています。

これから、それぞれの国の仲間たちにはどのような支援が必要なのか、皆さんの日頃の活動と、写真のような活動がどのようにつながっているのか、1円玉募金を手ごかりに考えてみることにしましょう。

2支援内容を知ろう

表面下段の写真に関連する支援内容を考えてみましょう。

性別や年齢、障がいに配慮したトイレや手洗い場(水道)の整備(写真①②③)

蛇口、トイレのドアなどが適正な高さに配置され、年齢の違う子供たちにとって使いやすいトイレを整備しました。(①)

また、整備された水道やトイレは、子どもたちが自主的に清掃を行うことで、清潔に保たれています。(②③)

今後は、男女別の設備になっていること、女性用の衛生器具や使いやすい焼却炉などが備えられていることなど、すべての子どもたちに対して優しい衛生設備になるよう、改善が加えられます。

青少年赤十字メンバーによる手洗い講習会の実施(写真④)

1円玉募金をもとにメンバーが手洗いを学ぶ研修会を開催し、これを受けたメンバーが、さらにその家族や地域の人々に手洗いを広め、下痢を減らし健康を保つという大切な役割を担っています。

手洗いによって地域に健康を広めているメンバーの活躍は、ネパールでとても喜ばれています。

先生、生徒に対する防災・減災の訓練の実施(写真⑤⑥)

学校の教職員、児童生徒に対して防災教育を実践しています。

今後は、教育研修省や関係者として連携をし、いよいよ学校現場で防災教育が実践できるようになります。

救急法や避難訓練の実施(写真⑦⑧)

自分の身を守る実践的な方法として、学校における避難訓練(⑦)や救急法研修(⑧)を実施し、具体的なスキルを身につけます。

3考えよう

私たちと同世代の子どもの様子を知ってどんなことを考えますか？

- もし、募金が届いていなかったら、子どもたちはどのような状況にいたのでしょうか？
 - もし、支援が必要ならば、どのようなことでしょうか？また、どのようなことができますか？
- 【国際理解・親善、健康・安全、奉仕】

4行動しよう

私たちにできることは何でしょうか？

●現地の子どもたちと交流してみよう。【国際理解・親善】

トピックアルバム(写真データやメッセージ)を電子メール等で交換し、交流を深める活動があります。

●募金をしてみよう。【奉仕】

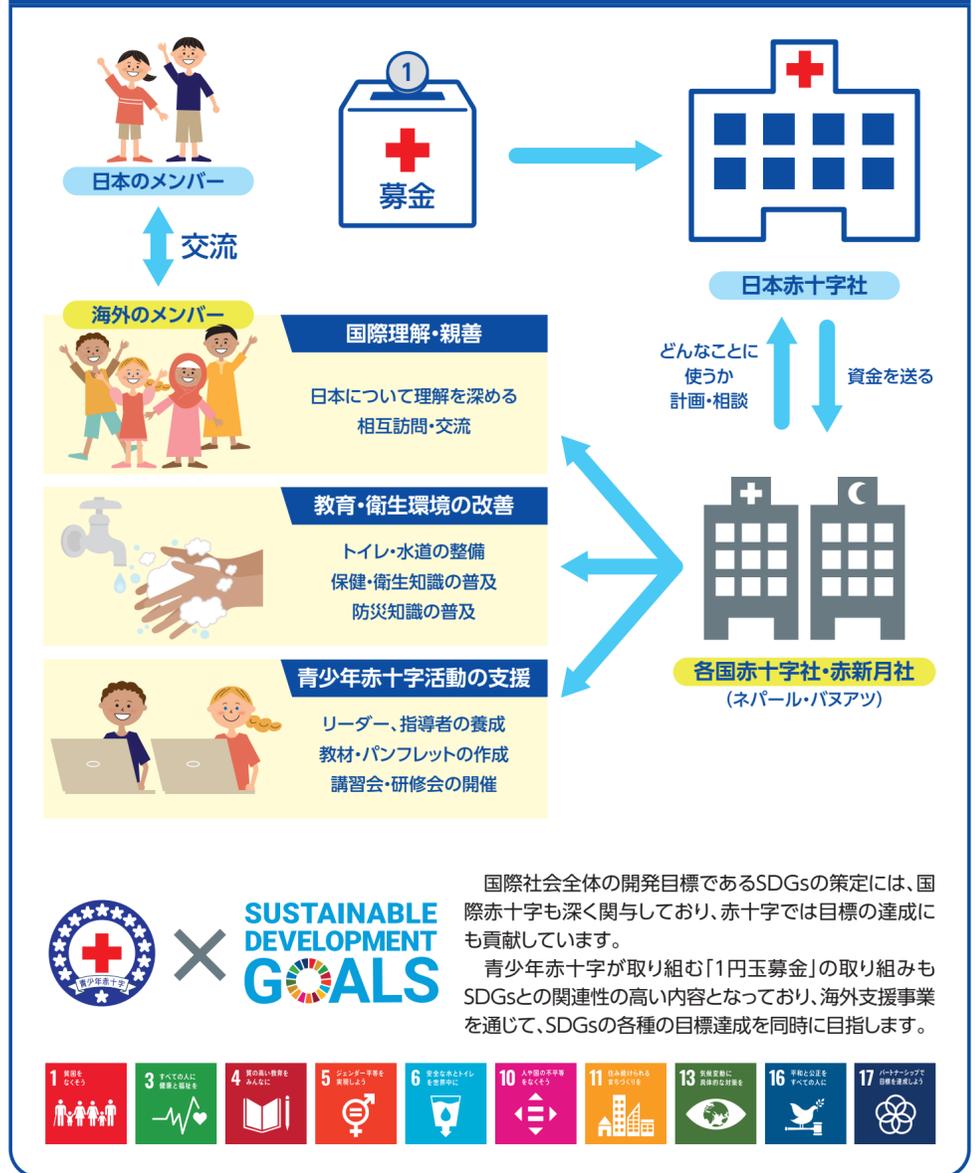
海外支援事業のために使われる「1円玉募金」は、千葉県支部で受け付けています。(各都道府県支部でも受け付けています。)

青少年赤十字メンバーによる支援(1円玉募金)をネパール・バヌアツに届けることができます。

青少年赤十字活動資金を活用した海外支援事業(日本赤十字社本社ホームページ)
<https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/youth/support/>

その他の青少年赤十字機関紙の紹介(日本赤十字社千葉県支部ホームページ)
 ※このポスターに関連する画像データのダウンロードはこちらから
<https://www.chiba.jrc.or.jp/activity/youth/report/jrckikanshi.html>

青少年赤十字活動資金(1円玉募金)の流れ



国際社会全体の開発目標であるSDGsの策定には、国際赤十字も深く関与しており、赤十字では目標の達成にも貢献しています。
 青少年赤十字が取り組む「1円玉募金」の取り組みもSDGsとの関連性の高い内容となっており、海外支援事業を通じて、SDGsの各種の目標達成を同時に目指します。



青少年赤十字機関紙(令和4年3月31日発行)